

下呂更生保護 サポートセンター だより

第 60 号

〒509-2517 下呂市萩原町萩原 1359 番地 1
TEL/FAX 0576-20-4216
E-mail gerohogoshikai@ccn.aitai.ne.jp

年頭のご挨拶

会長 青木 正範

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年の活動を振り返ると、社明運動、また各委員会活動での有意義で充実した活動が出来た一年であったと思います。飛騨地区 3 保護司会として初めて共催した活動もできました。これも会員の皆様の積極的な行動力実行力があってのことです。そして、2 名の方に新しい保護司の仲間として加わって頂きました。

昨年の大津の事件は痛ましく大きな衝撃であり、全国の保護司、更生保護事業をめぐる情勢は、安全で安心な活動ができる環境の整備、処遇改善、再犯防止の取り組み、なり手不足など困難な課題も多くあります。

本年の保護司会の活動も昨年に引き続き、チームワークを保ち各自がレベルアップをして全員で取り組んでいきたいと思ひます。

本年が下呂保護司会、また会員の皆様にとってより良い一年となりますようにと念じ、新年のご挨拶といたします。



飛騨 3 保護区保護司会 合同研修会

「新任保護司研修会」(12月12日)

各務 敏文

「大変な事も、裏切られる事もあるけれど、終わってしまうと不思議とまた担当を持ちたいと思うのよね！」高山市で 20 年来保護司を続けてみえる砂田茂登子さんのお話を聞き、「ボランティアであることに意義があり価値がある・・・」という前職時代に傾聴ボランティア養成講座を実施した際、講師として招いた“岐阜いのちの電話”理事長の講話を思い出しました。

仕事として担っている保護観察官とは別に、見返りを求めないボランティアとして孤立しがちな対象者を全面的に肯定的な態度で迎え入れてくれる人が地域にすることが大切！と、私なりに理解して 3 号観察を担当していますが、毎回「これでよいのか？」と自問自答しつつ、面接している新米保護司としては、とても参考になり励みになる研修会でした。



高山市役所 会議室

この研修会は全国保護司連盟の活動紹介のホームページにも掲載されました。

第 3 期地域別定例研修会レポート

「発達障害の理解と対応」(12月6日)

桂川 国男

- ・ 信頼関係を築くためには、本人の話をしっかりと聞く。
- ・ 特に面接日等については母親や家族の協力を得る。
- ・ 面接の曜日とか日にちを固定する。
- ・ 本人がリラックスできる雰囲気づくり、場所づくりをする。
- ・ 自分の障害を本人がどれだけ認識しているか把握する。
- ・ あまり目標を高くしないで低いところから少しずつ上げていく。
- ・ 書面だけでは信用できないこともあり、本人との話の中からつかみ取る感覚を身に着ける。
- ・ 困ったときは観察所に相談する。
- ・ 薬は医療機関受診による処方をお勧めする。

など、今回は障がい者に対する保護観察がテーマでしたが、常に念頭に置き対応したいと感じました。



講師は東松主任官(木曾屋)

2月予定表（サポートセンター当番）

月	日	曜日	行 事 名	午前(9:00~12:00)		午後(12:00~15:00)	
2	1	土					
	2	日					
	3	月		青木正範	高橋典子	都築保彦	山中麦子
	4	火					
	5	水		高井範和	山中麦子	高井範和	山中麦子
	6	木					
	7	金		大江真人 永田光由	都築保彦 可児正充	山中麦子	
	8	土					
	9	日					
	10	月		青木正範	山中麦子	高井範和	山中麦子
	11	火	建国記念の日				
	12	水		高井範和	山中麦子	都築保彦	山中麦子
	13	木					
	14	金		高橋典子	山中麦子	永田光由	山中麦子
	15	土					
	16	日					
	17	月		青木正範	山中麦子	都築保彦	山中麦子
	18	火					
	19	水		高井範和	山中麦子	高井範和	山中麦子
	20	木					
	21	金		大江真人 永田光由	都築保彦 可児正充	青木正範	高橋典子
	22	土					
	23	日	天皇誕生日				
	24	月	振替休日				
	25	火					
	26	水		永田光由	山中麦子	高井範和	山中麦子
	27	木					
	28	金		都築保彦	山中麦子	垣内新子	山中麦子